

事例番号:280199

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第六部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

1 回経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 6 日

8:20 硬膜外麻酔併用分娩目的で入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 38 週 6 日

10:00 メロリンテル挿入(生食 150mL で固定)

10:20 オキシシン注射液による分娩誘発開始

14:10 自然破水、メロリンテルとともに臍帯脱出を確認

14:15 頃 胎児心拍数陣痛図において胎児心拍が徐脈から聴取困難へ

超音波断層法で徐脈を確認

14:43 帝王切開により児娩出

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 6 日

(2) 出生時体重:3150g(高次医療機関 NICU で出生当日に計測)

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.147、PCO<sub>2</sub> 67.6mmHg、PO<sub>2</sub> 不明、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 23.6mmol/L、

BE -5.5mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 1 点、生後 5 分 1 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク)、胸骨圧迫、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 重症新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

生後 11 日 頭部 MRI で低酸素虚血の所見

**6) 診療体制等に関する情報**

(1) 診療区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1 名、麻酔科医 1 名

看護スタッフ:助産師 2 名、看護師 3 名

**2. 脳性麻痺発症の原因**

(1) 脳性麻痺発症の原因は、臍帯脱出による胎児低酸素・酸血症であると考え  
る。

(2) 臍帯脱出の原因として、臍帯脱出とメロイソテルが関連している可能性を否定  
できない。

(3) 臍帯脱出の発症時期は、自然破水し、メロイソテルが脱出した妊娠 38 週 6 日の  
14 時 10 分頃と考える。

**3. 臨床経過に関する医学的評価**

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 38 週 6 日に硬膜外麻酔併用分娩目的で分娩誘発としたことは一般的  
である。

(2) メロイソテル挿入後、20 分で子宮収縮薬(オキシトシン)の投与を開始したことは基準  
から逸脱している。

(3) オキシトシンを投与速度 20mL/時間で投与開始したことは基準から逸脱している。

(4) 妊娠 38 週 6 日 14 時 10 分の助産師の対応(臍帯脱出を認めた際に医師に連  
絡)、その後の医師の対応(骨盤高位として緊急帝王切開術を選択)は一般的  
である。

- (5) 緊急帝王切開を決定後、約 28 分で児を娩出したことは適確である。
- (6) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

### 3) 新生児経過

新生児蘇生(バック・マスクによる人工呼吸、胸骨圧迫、気管挿管)、高次医療機関 NICU へ搬送したことは一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) ムロイソテルを使用する場合は、「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」に則して実施することが望まれる。
- (2) ムロイソテルを使用する際には、妊産婦に説明した内容と同意が得られたことについて診療録に正確に記載することが望まれる。

【解説】 本事例はムロイソテルを含めた分娩誘発の説明内容の記載があった。観察事項や妊産婦に対して行われた処置、説明内容等は詳細を記載することが重要である。

- (3) 子宮収縮薬(オキシトシン)の使用については「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」に則した使用法が望まれる。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

- (1) 学会・職能団体に対して  
なし。
- (2) 国・地方自治体に対して  
なし。